

令和六年茨城県支部俳句大会成績（事前投句）

日時 令和六年四月二十三日

場所 水戸市・茨城県立青少年会館

本部選者 守屋 明俊（俳人協会評議員）

守屋 明俊特選

避難所のカナリヤ色の毛布かな

和田ゑみこ

火事出動へ母炊く釜の醤油めし

澤田 美緒

子どもらを屈ませれるる犬ふぐり

栃木絵津子

大竹 多可志特選

塾の子に温めなほす根深汁

和田ゑみこ

立春の海を見たくて観覧車

平野 悦子

春疾風庭木も髪も阿修羅めく

澤田 美緒

笹川 昌子特選

犬小屋の屋根に犬の名あたたかし

矢須 恵由

あたたかや本屋に開くローランサン

田中 ゆず

チャイム鳴るまだぶらんこの揺れてをり

杉山 昭風

天下井 誠史特選

家つぐは村を継ぐこと種を蒔く

中村 孝道

僻地とて子にはふる里囀れり

染谷 翠溪

平凡に生きる幸せ桜月

小林たか江

今瀬 剛一特選

青萱や風を豊かに渡し跡

永山 憲子

つくしんぼ児は日曜の父母が好き

永井 弘子

枝移る鳥影聡し春障子

小川みのる

桜井筑蛙特選

来ぬ人を気遣ふ仲間日向ぼこ

横田 和己

文字太く世界の平和筆始

飛田 伸夫

初蝶を遠眼差しに追ひしかな

宇田川世都

入選作品（1位～18位）

さへづりや大樹に小さき投句箱	永井 弘子
塾の子に温めなほす根深汁	和田ゑみこ
つくしんぼ児は日曜の父母が好き	永井 弘子
来ぬ人を気遣ふ仲間日向ぼこ	横田 和己
奥能登の塩一つまみ齋粥	大島 良子
チャイム鳴るまだぶらんこの揺れてをり	杉山 昭風
火の神の護符貼り替へて二月尽	小川みのる
花見莫塵手皿に受ける香の物	永山 憲子
火の見より高きに峡の鯉幟	平塚 決子
弱くなる脚をはげまし青き踏む	山崎マサ子
想ひ出をあたため直す日向ぼこ	村田 敏子
閉校となる窓磨く四温かな	笹川 昌子
家つぐは村を継ぐこと種を蒔く	中村 孝道
梅ヶ香や父の遺愛を一枝折る	大山とし子
僻地とて子にはふる里囀れり	染谷 翠溪
犬小屋の屋根に犬の名あたたかし	矢須 恵由

令和六年茨城県支部俳句大会成績（当日句）

守屋 明俊特選

万緑へフェリー跳び出すオートバイ	安方 墨子
百歳に百歳の過去豆ごはん	永山 憲子
水温む夫が炊事を始めし日	坂場 俊仁

大竹多可志特選

背の順の登校班や水温む	和田ゑみこ
生き方は生涯変へずねぎぼうず	浅野とし子
高台にかつて母校や燕来る	笹川 昌子

笹川 昌子特選

春しぐれ農衣のかかる大庇	中村 孝道
ひつそりとしつかりと咲いてゐる菫	大山とし子

じはじはと墨吸ふ色紙春惜しむ

安方 墨子

天下井 誠史特選

百歳に百歳の過去豆ごはん

永山 憲子

入選句（1位〜21位）

予報士の声も弾める花便り

坏 文雄

脱ぎしものふつくらとあり花月夜

小木津閨子

春昼の赤子のあくび吾の欠伸

飛田 伸夫

未だ慣れぬ二人の暮し沈丁花

関 千種

高台にかつて母校や燕来る

笹川 昌子

余生てふ今は輝き春シヨール

大島 良子

どの子にも風のふれゆく聖五月

平野 悦子

つくし摘む子の手いつぱい日のにほひ

平野 悦子

百歳に百歳の過去豆ごはん

永山 憲子

背の順の登校班や水温む

和田ゑみこ

水温む夫が炊事を始めし日

坂場 俊仁

じはじはと墨吸ふ色紙春惜しむ

安方 墨子

和紙の耳さばさは乾く聖五月

笹川 昌子

屋根にとび地にとび春の雀かな

永山 憲子

生き方は生涯変へずねぎぼうず

浅野とし子

常陸野のまつ只中や田水張る

守屋 明俊

春しぐれ農衣のかかる大庇

中村 孝道

ひつそりとしつかりと咲いてゐる菫

大山とし子

来年は廃校と聞く山桜

高井まさ江

ゆつたりと廻る風車や春日和

小口 隆光

著莪の花残して町の清掃日

海老原元彦